

第38回 (H29.冬) 佐鳴湖水質調査の結果



平成29年2月 佐鳴湖地域協議会

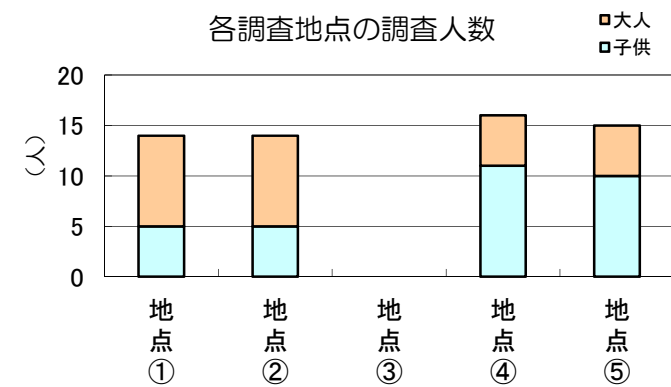
佐鳴湖では、住民の方々にご協力いただき、四季ごとに水のきれいさや生物の豊かさなどを調査しています。平成19年10月から始めたこの調査は、今回で通算38回目となりました。

調査は大きく分けて「アンケート調査」と「簡易水質調査」の2つがあります。「アンケート調査」は、調査地点の水を見たり触れたりしてもらい、評価や感想を回答いただくものです。「簡易水質調査」は現地で簡単な器具を使い、水質をその場ですばやく判定するものです。それらの結果と、静岡県が詳しく測定した水質の調査結果をあわせて、「人と湖沼の豊かなふれあいの確保」や「豊かな生態系の確保」などの視点から、佐鳴湖の環境を評価しています。

視点	調査の内容	
	アンケート調査	簡易水質調査
人と湖沼の豊かなふれあいの確保	ごみの量、水におい湖底の様子、アオコ発生水辺の音、水の透明さ水とのふれあいやすさ	透視度、透明度 700フィルの簡易確認
豊かな生態系の確保	水辺の植生 水生生物	溶存酸素(DO) アモニア態窒素(NH ₄ -N)
湖沼の基本的特徴の表現		pH、COD



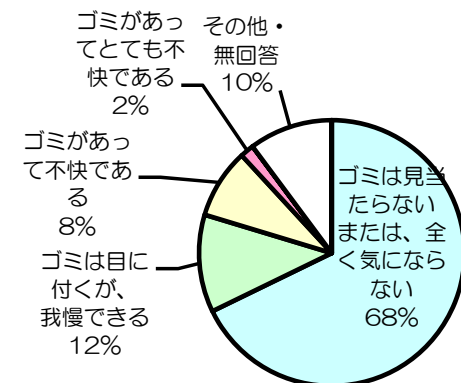
調査日時：平成29年2月11日(土)
9時~12時
参加人数：30名
(大人14名、子供16名)
調査地点：4地点



※地点③については、今年度は調査をしていません。

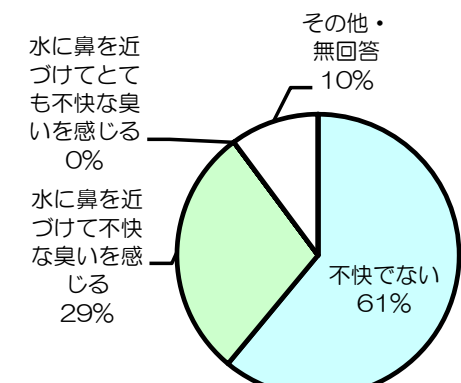


アンケート調査の結果



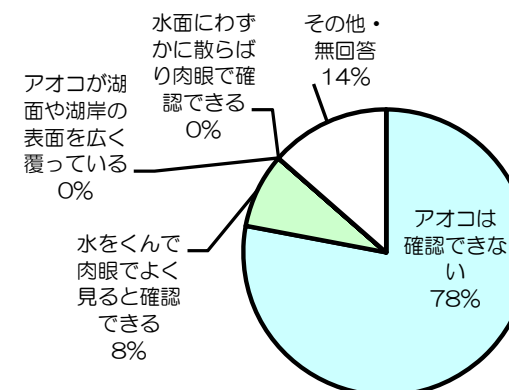
ゴミの量

68%の人が「ゴミは見当たらない、または全く気にならない」と答えました。



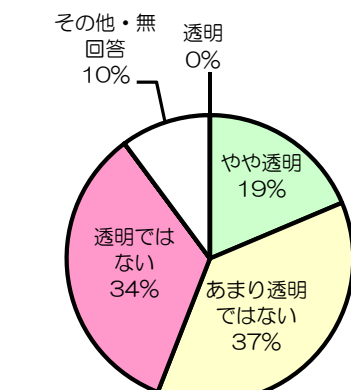
水のおい

61%の人が水のおい「不快でない」と答えました。



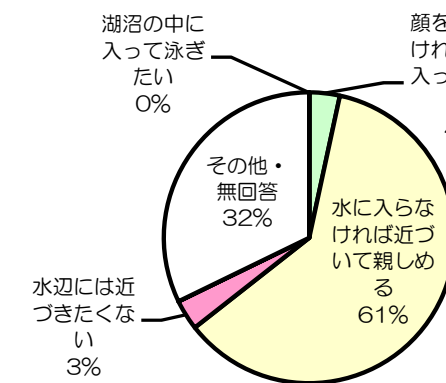
アオコの発生

78%の人が「アオコは確認できない」と答えました。



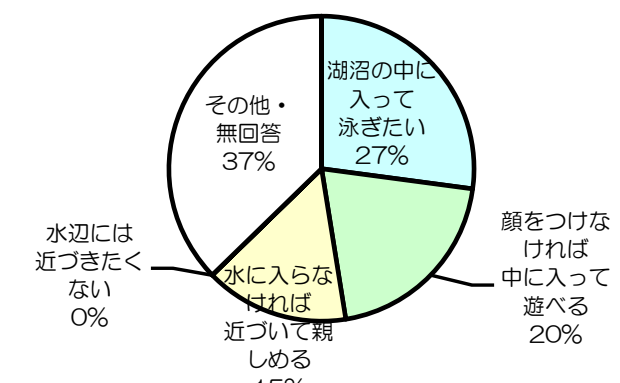
水の透明さ

「透明ではない」または「あまり透明ではない」という回答が多くなりました。



佐鳴湖の水を見て(現状)

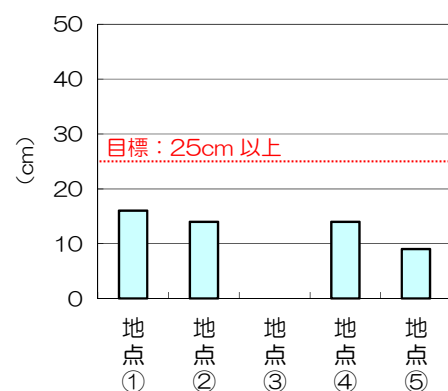
「水に入らなければ近づいて親しめる」という回答が61%で最も多くなりました。



将来の佐鳴湖(希望)

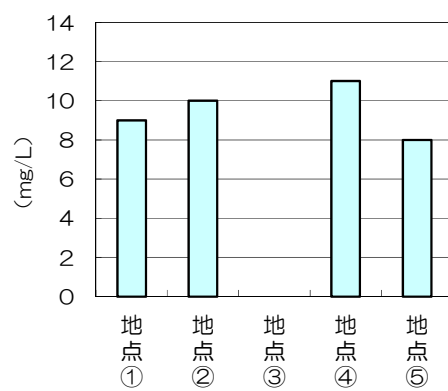
「泳ぎたい」と思うきれいな湖沼になってほしいという回答が多くみられました。

簡易水質調査の結果



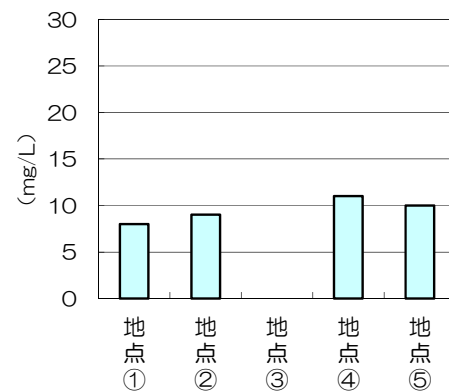
透視度

透視度（水の透明さの程度）は 9～16cm で、目標の 25cm には届きませんでした。



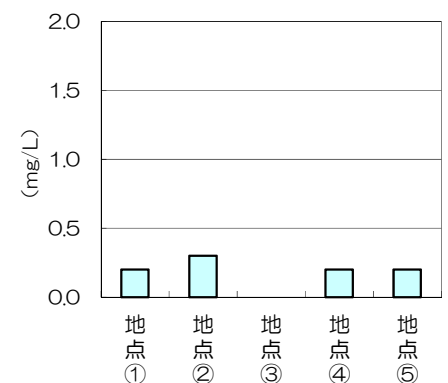
溶存酸素 (DO)

生物の生息に必要な、水に溶けている酸素の量 (DO) は、簡易測定で 8～11mg/L でした。



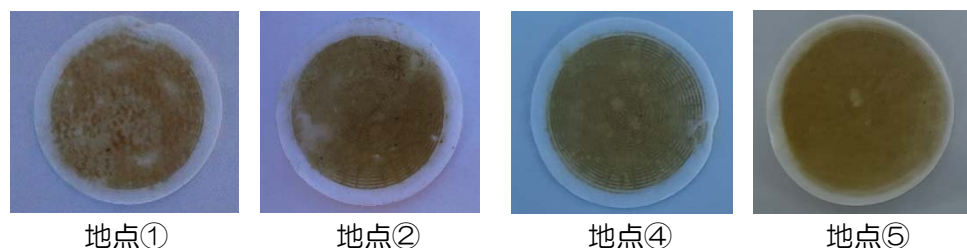
化学的酸素要求量 (COD)

有機物による水の汚れの程度を表す COD は、簡易測定で 8～11mg/L でした。



アンモニア態窒素 (NH₄-N)

生物の死がいなどが分解されてできるアンモニア態窒素は、簡易測定で 0.2～0.3mg/L でした。



クロロフィルの簡易確認

注射筒とろ紙を使って、200mL の水をろ過しました。ろ紙の色は、いずれの地点も褐色に近い色になりましたが、地点によって色の濃淡が見られました。



河川管理者（静岡県）による測定結果

測定項目	SS (mg/L)	濁度 (度)	クロロフィル a (μg/L)	糞便性大腸菌群数 (個/100mL)	溶存酸素 DO (mg/L)	化学的酸素要求量 COD (mg/L)	アンモニア態窒素 NH ₄ -N (mg/L)
調査地点①	18	36.5	122	4	13.4	9.3	0.03
調査地点②	18	43.2	156	4	12.8	10.4	0.05
調査地点③	-	-	-	-	-	-	-
調査地点④	15	29.0	95	8	14.5	8.1	0.01
調査地点⑤	17	35.2	120	20	14.8	9.0	0.01

溶存酸素 (DO)、アンモニア態窒素 (NH₄-N) はおもに底のほうにすむ生物がすみやすい環境であるかを調べるため、底層の水を採取して調べています。

生物調査の結果

水生生物の採取

ペットボトルで作ったしかけやタモ網を使用して、水辺にすむ生物の調査を行いました。調査を行ったのは地点②⑤の2地点です。

甲殻類はテナガエビ、スジエビ、モクズガニ、ヨコエビの仲間がとれました。魚類はマハゼとアベハゼの稚魚、貝類はカワニナが見られました。

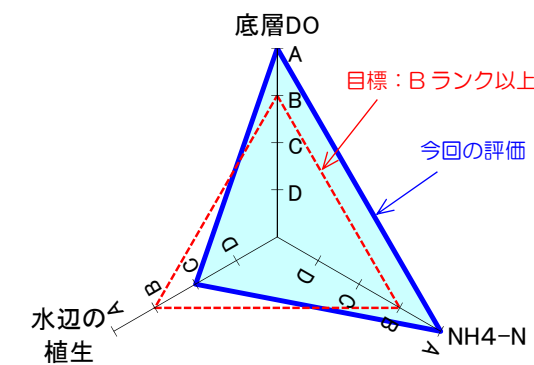
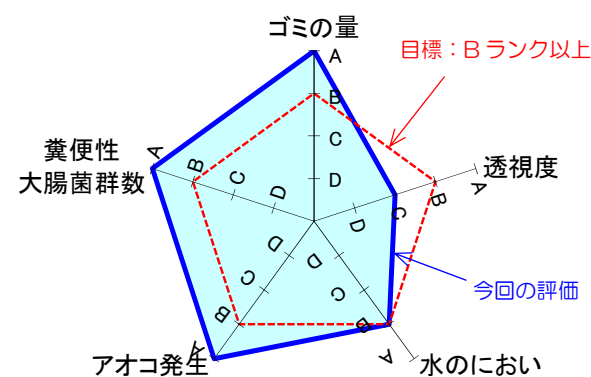
冬で水温が低いため、他の季節に比べて少なくなりましたが、合計で7種類の生物を確認しました。



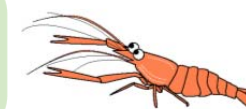
湖沼における新しい水質管理指標（案）による評価

みなさんの調査の結果と河川管理者（静岡県）による測定結果を、平成 22 年度に国土交通省より発表された評価方法で評価しました。下のグラフは、今回調査した4地点の評価を項目ごとに平均したものです。佐鳴湖の当面の目標は、すべての項目でBランク以上になることです。今回も前回秋の調査と同様に「透視度」と「水辺の植生」がCランクとなり、目標は達成できませんでした。

一方、のべ 32 個(8項目×4地点)の調査項目のうち、Aランクを獲得したのは 22 個(全体の 69%)で、前回よりさらに 2 個増えました。



おわりに 寒波の影響で調査当日の朝は厳しい冷え込みになりましたが、ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。次回は春（5月）を予定しています。また多くの方のご参加を、お待ちしております！



この調査結果の詳細については、こちらまでお問い合わせください。

お問い合わせ先：佐鳴湖地域協議会

(事務局) 静岡県浜松土木事務所 企画検査課 (053-458-7266)